

平成 25 年 6 月 10 日

地盤工学会

14 : 00 ~ 17 : 00

地盤工学会関東支部

江戸期以降の土木史跡の地盤工学的分析・評価に関する研究委員会

平成 25 年度第 1 回委員会 議事録

出席者：正垣委員長、金田幹事、大里幹事、太田委員、菊地委員、内藤委員、坂梨委員、倉岡委員、小野日出男委員、田中委員、渡邊委員、内田委員、川辺委員、藤井委員、笠委員、小野田委員
欠席者：中山委員、末岡委員、菅野委員、小野諭委員、西岡委員、昌子委員、土倉委員、土門委員、原委員、田頭委員

委員会の進行は次の順番で行われた。

1. 委員長の挨拶
2. 前回議事録の確認をして、承認された。
3. 配布資料の確認
 - 1-1 地盤工学会関東支部 江戸期以降の土木史跡の地盤工学的分析・評価に関する研究委員会 第 1 回 議事次第
 - 1-2 米軍ドライドッグ(1号)の石積み構造検討について
 - 1-3 土木史跡委員会 地上構造物 G の報告 (2013 年 6 月 10 日)
 - 1-4 土木史跡委員会の活動から 一横須賀市の軍事遺産一 (5 月号別刷り)
 - 1-5 市民対象の講演会 (2013 年) 案
 - 1-6 ヨーロッパと日本の歴史的乾ドッグ展 (菊地)

回覧資料

- ・ Earth day 2013、米海軍横須賀基地 (Apr.29,2013) の参加写真 (正垣)
- ・ 1 号ドック壁面と形状の経年変化調査 (途中経過) (正垣)
- ・ 日本の煉瓦構造物の文化遺産的価値の評価 (田中)
- ・ イギリスの城 (田中)
- ・ 石造アーチ橋-小石川後楽園の円月橋-の解体修復工事 (田中)

4. 各 WG の経過報告・審議

(1) 港湾 WG (藤井委員、笠委員)

藤井委員

- ・ JSG 富山大会と国際応用地質学会での発表についての説明があった。
- ・ 4 月 29 日に開催された横須賀米軍基地内アースデーへの出展についての説明があった (米軍から文化財であるドライドックについて出展してほしいとの依頼)。
- ・ 米軍から文化財や生態系について出展してほしいとの依頼があった。
- ・ 関東支部ニュースレターについて 6 月 17 日を目途に意見を委員から伺うこととした。
- ・ 6 月 6.7 日にドライドックの測量を実施した。今回は全域の調査をした。
- ・ 正垣委員長からアースデーに関して地盤工学会誌への投稿について話があったが、金田が持ち帰ることとした。

基本的には学会誌の紙面を少なくしたい、5 月号で関東支部の特集号がありそこでもこの委員会の紹介

をしている、他の関東支部の研究委員会も多くある中イベントごとに紹介することがいいのかとの意見もあり、全体を見通して検討することがよいと思われる。

笠委員

- ・ドライドッグの石積みの構造計算についての説明があった。
- ・物性の妥当性の検討が必要であること、引張域の検討が必要であることなどが話された。
- ・モデル解析領域ですべった形跡があるので破壊形態が参考になるかもしれない。
- ・現場でひずみ計などを設置して計測できないかとの意見が出た。大成助成金の使途の中で検討したいとの返答があった。

(2) 地上構造物 WG (小野 WG 長)

- ・地上構造物 WG のテーマや台場圧密特性の検討についての経緯の説明があった。
- ・6月22~24日に土木史報告会があり、そこでレンガやイギリスの城の報告をする。
- ・現地調査をするのはなかなか難しいとの認識。

5. 今後の委員会活動と最終成果の方向性

(1) 今後の委員会活動

- ・H25年度市民対象の講演会について正垣委員長より説明があった。
- ・H26年度シンポジウムと報告書について大里幹事より説明があった。

報告書についていろいろと議論があった。

- ・ページは予算による。著者権の許諾には1か月はかかる。会場の予約(規模や人数)。報告書は半年くらいかかると考えられる。
- ・学校教育にも土木史跡を教材としている。アウトリーチとして教育についても内容に含めたいのでは。(考古学の方ではやっている)
- ・網羅的かやったことを中心とするのかどちらを主体とするのか?
- ・シンポジウムは公募するのか、委員会内部からは出さないのか?
→委員会でも論文を投稿してほしい。
- ・横須賀の発表が多いので、関東支部の委員会として他の県で活躍している方に声をかけたい。
- ・地盤工学会での活動なので考古学的なことを網羅するより工学的なことを主体とした方がいい。
→考古学からの研究では力学的な観点について検討不足なこともあり、このような人との連携も視野に入れるために考古学的なことも網羅したらいいいのでは。
- ・あれも書きたい、これも書きたいとなると発散してしまうので、例えば土木学会の土木史委員会とコンタクトをとって絞った方がいいのではないか。
- ・この分野は範囲が広い。すべてを網羅できなくてもいい。これをきっかけとしていろいろな人がこんなこともやりたい、あんなこともやったらいいのでは、というような広がり期待している。この委員会の成果をまとめて次のステップにつなげてほしい。
- ・報告書は委員が書きたいことを書けばいいのでは。内容がさまざまになるだろうが、それを1年かけて精査していけばいいのでは。
- ・項目をあげておくことは良いと思う。
- ・地盤工学の専門家が歴史遺産を見るとどう評価するかが楽しみ。特に6号ドックの耐震性に関してはプレス発表レベルだと思う。
- ・委員会報告なので基本的にやったことを書くのがよいと思う。
- ・誰に対して発信しているのか?
→自分のために書くのでは?
→考古学やその他の人に向けて書くのだったらその項目だてが必要。

- ・サブタイトルで「地盤工学から見た」を入れたらどうか？
- ・調査などを項目に入れたらどうか？
- ・土質試験をやってもらえばいろいろな解析ができる。しかし、考古学をやっている人はそのような感覚がない。
- ・3章の項目は具体的にどの項目を誰が執筆するかを明示したらどうか？
- ・土木史跡に関する報告書として、マイルストンの位置づけになる報告書が目指せると良い。
- ・体系化、理念をまとめるのが現実的。まとまった考え方を示すのが大切。目次案が示されているのでいいのではないか、これにケーススタディーを加えればよい。
- ・コンセプトを決めて書いたらいいのでは。
- ・3章のようにまとまっていればよい。でも3年間かけて作るもののような気がする。
- ・井戸について書くことはできる。
- ・やってきたことを地盤工学的にどう見るかが重要。
- ・3年間でやってきたことだけで報告書として体系的になっているのか？むしろ出さない方がいいのでは。
- ・横須賀の軍事施設が中心になっているのでこの点からだけでもいいのでは。
- ・ガイドラインも書く必要があるが、70ページも難しく10ページくらいでもいいのでは。
- ・調査法が抜けているが現状オーソライズされているかが問題。
- ・事例研究をおおくだせばいいのでは。

⇒以上の意見を踏まえて、各WGで内容を検討して次回委員会にその結果を報告・審議する。

(2) 大成助成金の活用について（正垣委員長）

- ・地下空間WG,地上構造物WGが特に使う予定がないとのことで港湾WGで使用したい。
- ・6月6,7日の藤井委員の調査旅費や1号ドッグ裏込め地盤のボーリング等に予定している。

(3) 市民向けシンポジウムについて

- ・報告書のフレームが出来上がった時に再考する。
- ・今年度は開催しないことを確認した。

(4) 台場圧密特性について

- ・今度地上WGで検討していく。必要なら委員の公募を行う。

次回委員会は 8月28日(水) 14:00～ となった。また、次々回は10月の第2週に予定する。開催日は次回委員会で決める。

次回委員会(8月28日)の議題案は以下のようである。

- 1) 各WGの経過報告と審議
- 2) 最終報告書に対する各WGの検討内容の紹介と審議
- 3) 台場圧密特性の検討に対する方向性等
- 4) Geo-Kanto(10/4)について
- 5) 大成助成金の使途
- 6) その他

以上